

一般質問

12月12日に開会された第4回定例会では、3名から6件の一般質問がありました。



小松議員

ひまわりバンク基金について

小松議員

ひまわりバンク育成基金の残金が平成24年度決算時で5,200万円、年間約700万円の取り崩しを行って各事業に取り組んでいるが、このまま推移をすると7年後には財源不足になる。このことは今年度の3月の予算審査特別委員会の時にも質問し、今後の考え方について、関係機関と協議をするとの答弁をいただいていたが、その後どのような協議がなされ、今後どう進めるのか町長の考えを伺う。

佐野町長

ひまわりバンク育成基金は、平成6年度から10年度までに町5,000万円、農協3,000万円の合計1億円を原資として積み立てた基金である。当初は基金の利息と町、農協の負担で各事業を行ってきたが、基金利息の減少や平成12年の農協合併を期に基金積み立て原資を取り崩して現在運用している。この事は、その都度ひまわりバンク育成基金幹事会や運用委員会で慎重審

議している。特に北竜町において、農地移動が比較的スムーズに行われてきたのは、農地保有合理化事業による利息助成制度が大きな一翼を担ってきたと思う。

基金残金については、平成25年度末で4,400万円で、近年およそ800万円取り崩している。5年後の平成30年度には原資は底をつく。その場合、基本的には全ての事業をゼロベースで見直す必要がある。その上で継続すべき事業や一定の役割が終わった事業など精査し、事業費なども検討する。新たに農協や農業者が資金を負担できないとなると、事業規模はかなり縮小せざるを得なくなると思われる。また、関係機関との具体的な協議はまだなされていないが今後、基金幹事会、運用委員会などと協議を進める。

小松議員

私の予想より一、二年早く原資が無くなり、その時点で事業をゼロベースから見直すとの事だが私は原資が無くな



る前に早急に原資の積み増しの検討をすべきと思う。平成30年になってあれも止めた、これも止めたではいかにも計画性が無いと思う。事業の見直し、縮小もやむを得ないかとも思うが是非、明年度から原資の積み増しに取り組んでいただきたい。

佐野町長

今後、早急に存続に向けた協議を行うのでご理解いただきたい。



近年、パワーアップ事業の終了、さらには暗渠資材としての需要が無くなった事により大量の籾殻が産業廃棄物となり、一部は堆肥化あるいは畜産農家に販売しているが、その大半は各戸で焼却処分しているのが現状である。この焼却も近年なかなか許されるものでもなくなっている。今後この処理についても農協、生産者と充分協議して進める



小松議員

米収穫時に発生する籾がらの処理について

小松議員
近年、パワーアップ事業の終了、さらには暗渠資材としての需要が無くなった事により大量の籾殻が産業廃棄物となり、一部は堆肥化あるいは畜産農家に販売しているが、その大半は各戸で焼却処分しているのが現状である。この焼却も近年なかなか許されるものでもなくなっている。今後この処理についても農協、生産者と充分協議して進める

佐野町長

籾殻の処理については、昔は当然の様に野焼きでの処理がなされていたが、現在は環境問題から原則禁止されている。暗渠工事等が無くなった現在、北竜町では2万7,000トンの籾殻が排出され、



小松議員

新たな防災計画について

小松議員

近年、世界的な異常気象で大変大きな災害が各国で発生

し、多くの尊い命が失われている。日本でもピンポイントでのゲリラ豪雨等が発生し、

その六割程度が道東方面へ畜舎内の敷料として利用されているが、暗渠、燐炭、畑地への投入が二割程度、残り二割程度がその他として処理されている。基本的には農協が取り組む事業であるが、私としても大きな課題と想っている。今後関係機関と協議する。

小松議員

言われる通りこれは農協と農業者が取り組まなければならぬ事業であるが、町も何らかの支援を戴けないかという農協からの要請である。町長も大きな課題として認識をして頂いているので、前向きに検討願う。

佐野町長

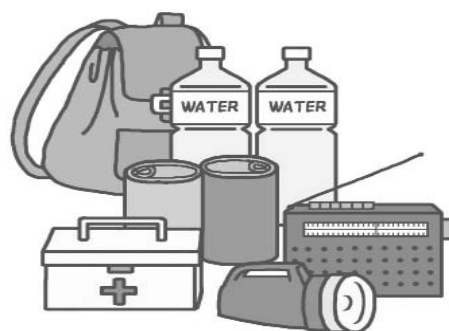
多くの生命と財産を失っている。北竜町も今年一部地域で水害が発生しており、昭和63年には大水害も経験している。今年度町長の行政執行方針で新たな防災計画を策定するとあつたが、その進捗状況について伺う。

現在の北竜町防災計画は、平成12年に策定され、すでに13年が経過している。

災害はいつ、どこで発生するかは予測しがたく、近年は集中豪雨、地震、竜巻、豪雪等が瞬時に起こり、全国各地で災害が発生し時代に即した計画の見直しを行う必要がある。現在、平成25年度北海道緊急雇用創出推進事業（補助事業）を活用し、株式会社ぎようせいに委託を行い、新計画の見直しを進めている。今後、警察・消防・北海道・自衛隊などの関係機関との調整を図りながら新計画の策定を行う。

小松議員

町内の広い範囲で高齢者の



世帯、独居老人の方が生活をされている。地域町内会での支援体制等含めて、きめ細かい計画になることを期待する。災害発生時の避難場所の周知、町内で地盤が弱いと想定される危険地帯、さらには1時間当たり何ミリの雨が降ればこの地帯に水害が発生するといった情報など、各町内会にきめ細かく伝達し、災害発生時に、地域の協力が最大限生かされる体制の整備を期待する。



小松議員 エーコープ北竜店の 今後の見通しに ついて

には大変大きな影響がある。

エーコープ北竜店は、現在農協の建物をホクレン商事が借り受けて出店している。この建物は昭和37年に建築され

町・農協・商工会がしっかりと協議をして、早急にその方針を示すべきと思うが考えを伺う。

佐野町長

エーコープ北竜店については、建物の老朽化により屋上

の防水が機能せず、雨漏りや雨水が壁を伝いモルタルの壁が崩れやすく、特に北側の壁は、落下の恐れもある。また、バックヤードの環境が悪く、施設全体の歪みもひどく、二階は窓も開かない状況で修復が不可能と聞いている。それを受け、現在町、農協、商工会三者で今後の取り組みについて検討している。

農協とホクレン商事の協議では、ホクレン商事の経営規模は最低でもイチヤン店の床面積が無ければ営業の継続は



できない。それより小規模で営業するとしても、地域住民の利用確約が無ければ営業しないとの事で、事実上撤退し、代わりに移動販売車を週一回程度運行させたいとの事である。そのような厳しい状況であるが、三者とも組合員のた

め、商工振興のため、特に高齢者等買物弱者対策としても必要な施設であると思っている。近々、農協と商工会で住民アンケートを行い、どの程度の規模が必要かなど取りまとめて検討をする。

小松議員

いずれにしてもホクレン商事は撤退することになると思う。今、エーコープ規模の店舗が無くなると高齢者だけでなく、現役の世代にも大きな影響がある。町は定住対策として出産祝い金や住宅の新築に対する支援等も行っている

が地域にスーパードも無い、コンビニも無いという状況では、ここに住みたいという気持ちにもならないし、他市町に移住を考えている人は、これがきっかけで北竜町を離れるか

もしれないし、やむを得ず離れる方も出るかもしれない。例えば、建物を町が建ててそれを出店者に借りてもらうことは可能なのか、早急に具体的な協議を進め、町民が不安無く、安心して暮らせるよう進めていただきたい。



佐光議員 後世に残る 森林整備について

佐光議員

本町における宝の一つに67%を占める森林がある。今後、どう生かした森林整備を図るのか伺いたい。

一、森林面積の所有形態について

二、町有林の樹齢年度と伐採期を迎える樹木と面積について

三、森林の多面的及び公益機能について

佐野町長 森林はまさに町の宝で、その恩恵は計りしれないものがあり、その整備にあたっては北竜町森林整備計画に基づいて行っている。

森林面積の所有形態は国有林7,118ha、民有林3,562haのうち町有林は434haで林齢50年以下が334ha、50年以上が100haである。そのうち、森林総合研究所との契約面積は332haである。

佐野町長

大きな課題である。町で建物を立てて指定管理等を行うことも可能だと思う。ただし営業できる人を探すのも大きな課題である。今後三者でさらに協議する。



近年、木材の価格は輸入材に押され低迷しており、国も長伐期施工を推奨しており、森林総合研究所との契約も当初トドマツは50年で伐採する契約であつたが100年に変更している。このことから、伐期を迎えた森林は当面、維持管理に努め、木材価格の動向を見ながら伐採のタイミングを検討して参りたい。

森林の多面的、公益的機能については国土の保全と水源の涵養、環境保全と木材生産である。また、生物多様性保全、地球環境保全、快適環境形成機能、文化を創造する保健・レク機能などとても重要とされている。

今後の森林整備については、北空知森林組合など関係機関との連携を図りながら進めて参りたい。

佐光議員

概ね了解するが、森林総合研究所との契約でトドマツ50年伐採を100年に変更したそうだが、カラマツは30年、トドマツは40年から50年の伐期と言われるだけに、このサイクルを堅持すべきと思うが再度考えを伺う。

有馬産業課長

50年延長の中で、木材価格の動向を見ながら適正な伐採をしていく方針であり、その間の保育経費は研究所から出る事になる。

佐光議員

木材は伐採期を過ぎると変色し、木質が劣化するとも言われる。その時の相場にとらわれず、森林の多目的、公益的機能に重点を置き計画的に整備を図る。50年スパンで植林、下刈り、間伐や林道整備等によって公共事業として雇

用の場が生まれ、地域の活性化にもつながると思う。

我々の世代での森林資源の計画的循環サイクルによって、自信を持って次世代、子供た



澤田議員 平成26年度予算編成 について

ちに緑豊かな森林を残すことが使命であると思う。森林整備計画に基づき着実に成果をあげること期待する。

澤田議員

国の経済対策による景気浮揚策として、元金臨時交付金による公共事業が全国で行われている。東日本大震災の復興事業とあいまって資機材・人材が不足し、資材費・人件費が高騰したことで経済が活性化して景気が良くなったかの幻想にある。

しかし、比例するように国債が千兆円を超えた状況にあり、国民資産も千五百兆円あると云われているが、来年導入される消費税8%への増税による消費の衰退と景気の減速が心配される。急がれる震

災復興と、2020年東京オリンピックなどへの投資が今後、自治体への交付税の削減圧力につながらないか危惧される。今後の自治体運営の危機管理、行財政改革の在り方について、予算編成と執行方針についてお聞きする。

佐野町長

国は地方の一般財源について、平成25年度を下回らないよう、同水準を確保するとしている。北竜町の26年度予算編成は一般会計の6割を占める普通交付税を25年度水準で見込み、財源確保を最大限行

いながら、来年度が初年度の

北竜町新総合計画後期基本計画に沿った事業を実施する。

昨年度からの地域の元金臨時

交付金事業、更に事務事業の

緊急性、必要性を精査して可

能な限り歳出の抑制に取り組

み、財政の健全性を確保しな

がら、多様化する町民ニーズ

に適切に対応し、町民主体の

町づくりを推進して行きたい。

現在、26年度予算を各課に

において調整しており、1月中

旬から査定を行い、2月上旬

の町長査定を経て、3月議会

定例会に提案する。

執行方針については、まだ

申し上げる内容に至っていないが、26年4月からの消費税

率引き上げに伴い、水道料、

下水道料の基本料金を値上げ

させていただく予定である。

澤田議員

定員管理の面では全道の公務員の非正規率が15%を超えていると言う。正規雇用は将来的にも一定の財政負担が生じる事になり、非正規で対応したいと言う事かと思うが、今後の行政運営を考えると、

年代的にバランスの取れた職場環境に配慮していかなければスムーズな行政運営が難しいのではないかと。

また、老朽化インフラの補修、更新が次々と出てくる状況にある。北空知衛生施設組合の旧ごみ焼却場の解体が来年度計画されているようだが、このために関係自治体で解体基金を積み立てているが、今の国の状況を見ると自治体の地方債を老朽化施設の撤去費用に充てられるよう、来年の通常国会で地方財政法の改正案が提出される予定にある。地方債が利用できれば大変有利となるので、国の支援策がどのような形になるか行方を見ながら取り組むべきではないか。

佐野町長

当初の計画では、職員の採用は退職者の2分の1に抑えていたが、近年は退職者と同数を補充しており、毎年職員が新採用となっている。年代的なバランスについては、年齢制限を多少上げて募集するなど、定員管理の適正化に努

めている。

老朽化インフラについてはコンサルを入れて把握しており、今後国の動向を見ながら取り組んで行きたい。

旧ごみ焼却場については、一部事務組合の定例会の中で説明があるかと思う。

澤田議員

限られた財源であり、各種事業について取捨選択し、町民の理解を得られる事業である事を第一義に取り組んでいただきたい。高齢化率も上がり、高齢者福祉、特に老老介護や認知症介護など家庭崩壊につながる大きな課題にどう対処していくか、今後の執行方針に反映されたい。



日本は超高齢化社会を迎えている。我が町もついに高齢化率40%を超えた。高齢化が進むと医療費や介護費が増え、保険料の増加となる、そのためにも健康な高齢者対策が重要である。

現在、日本人の平均寿命は男79・94歳、女86・41歳で、健康寿命は男70・42歳、女73・62歳と言われている。今後は疾病の発生を防ぐ1次予防政策が大きくクローズアップされてくる。幸い、我が町にもそれなりの施設として、温泉・パークゴルフ場・トレーニングルーム・ソフト面でも10年以上続くウォーキング教室、ラジオ体操、保健及び料理教室・等。生活習慣と運動が健康寿命に大きく関

議員コラム

係があり、特に運動習慣がある人は20〜80%認知症の発症が抑えられるそうだ。また、歩行の一步が秒速1m以下になれば介護や痴呆症に近づくとも言われている。このように筋力の低下や外出が減れば人との交わりが薄れ、脳への刺激が減少するだけに、健康は自らどう守るかが問われる。

私は、ここ1年間振り返ると夏季は還暦野球、パークゴルフが中心で、特にラジオ体操（我が家から歩いて会場まで）、冬季はウォーキング教室（ハードでなく多くのヒントを得て自宅でも継続出来る）、ゲートボール（室内で集中力と咄嗟の判断、ボケ防止に最適）、除雪（雪は健康の素と思えば気も楽）他に毎朝野球

バットで素振り・夜寝る前に腕立て伏せ30回以上継続し、筋肉を低下させないように努めている。

新たにトレーニングルームが出来たのでどう組み入れるか楽しみである。幸いに今のところ一切、薬は服用していない。

どんなことでも自分なりに出来る運動であれば、声がかかると素直に受け入れ意欲的に取り組み、継続することが健康寿命を延ばす秘訣かも知れない。

今後の町づくりに経験豊かな高齢者パワーをどう生かすかが大きな課題ではなかろうか・・・

（佐光）